

---

# 秀吉と咲良と I S 学園

エミリア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

秀吉と咲良とIS学園

### 【Nコード】

N1959S

### 【作者名】

エミリア

### 【あらすじ】

IS——それは女性のみが扱える機動兵器。時代は女尊男卑の世界。そんな世界で性別…秀吉の彼（彼女？）は一体どうするのか？ここに究極のSF学園ラブコメディが爆誕する。（笑）

## キャラ設定（4／7 原作キャラ一部追加）（前書き）

最近、仕事が忙しく、更にi nネギまと姫騎士をちよくちよく書いてたんですが、行き詰まってしまい、現実逃避しました。

だけど、敢えてここで言います！現実逃避でも激亀更新でも！最後まで貫き通す意志に偽りなど何一つない！！

私は基本的に有言実行の子です。どんなに時間がかかろうと、サスケsideの様に他の作品も完結させる所存です。

## キャラ設定（4／7 原作キャラ一部追加）

主人公？

### 【名前】

大神秀吉

### 【容姿】

バカとテストと召喚獣の木下秀吉をIS＜インフィニット・ストラトス＞に適用させた感じ

### 【年齢】

16歳

### 【身長】

155cm

### 【性別】

秀吉（本来の性別は男）

### 【出身／国籍】

日本／日本

### 【IS適正ランク】

なし（一般機）／Sランク（霊子甲冑型IS）

### 【備考】

霊子甲冑型ISの開発者。大神重工の御曹司で、大正時代に存在し

た対降魔秘密防衛組織・帝国華撃団の花組隊長である大神一郎の子孫。（実際には帝国華撃団花組と巴里華撃団花組の隊員は全員が先祖になる。また、大神重工の前身は神崎重工）

男性としてはかなり高い霊力を持っており、霊力量（別名…巫力値）はシャーマンキングの麻倉葉王と同じ125万。

霊子甲冑型ISを使用しての戦闘能力はIS学園最強の更識楯無を超える。

織斑一夏、篠ノ之箒、フアザンイン鳳鈴音とは幼馴染で、特に鈴音とは酢豚云々の約束をする間柄。小学校の頃、鈴音のことは日本語読みでおおとりんね鳳鈴音と呼んでいた。

インベーター小学校卒業後は一夏や鈴音とは別の中学に進学。中学時代に自称…革新者を名乗る仙忍兄妹と遭遇し、虚刀流を教わってたりする。

主人公？

### 【名前】

大神咲良

### 【容姿】

バカとテストと召喚獣の木下優子の髪をロングに変え、IS＜インフィニット・ストラトス＞に適用させた感じ

### 【年齢】

16歳

### 【身長】

155 cm

【性別】

女

【出身／国籍】

日本／日本

【IS適正ランク】

A++ランク（一般機）／Sランク（霊子甲冑型IS）

【備考】

秀吉の双子の妹。秀吉と同じく織斑一夏、篠ノ之箒、鳳鈴音とは幼馴染。また、鈴音のことは鈴音りんねと呼ぶ。

箒が引越した後、一夏に「毎日お味噌汁を作ってあげる」発言をした鈴音ポジションキャラ。（一夏はこの約束の相手を咲良ではなく秀吉と勘違いしている）

秀吉ほどではないがかなり高い霊力を持っており、霊力量（別名…巫力値）はシャーマンキングのサティ||サイガンと同じ75万。

霊子甲冑型ISを使用しての戦闘能力はIS学園最強の更識楯無と同等かそれ以上。

小学校卒業後は一夏や鈴音とは別の中学に進学。中学時代に自称..インベーター革新者を名乗る仙忍兄妹と遭遇し、全刀流を教わってたりする。

ヒロイン？

【名前】  
フアザンイン  
鳳鈴音

【容姿】  
原作通り

【年齢】  
15歳

【身長】  
152cm?

【性別】  
女

【出身／国籍】  
中国／日本?

【IS適正ランク】  
A＋ランク（一般機）／Sランク（霊子甲冑型IS）

【備考】  
原作IS＜インフィニット・ストラトス＞におけるヒロイン?。別  
名…八重歯中華娘。

当作品に置いては秀吉の嫁1号で、原作とは異なり中国代表候補生  
ではない。が、代表候補生でない代わりに自由国籍権を持っている。  
また、転入先が二組ではなく一組となる。

IS学園に転校してからクラス対抗戦が始まるまでの僅かな期間に  
秀吉の伝手で大神重工製の専用機をゲット。

秀吉や咲良と同様に霊力保持者。霊力量（別名…巫力値）はシャー

マンキングのアイアンメイデンⅡジャンヌと同じ68万。当初は自覚していなかったが、秀吉の説明により自覚する。

原作キャラ？

【名前】

織斑一夏

【容姿】

原作通り

【年齢】

15歳

【身長】

172cm？

【性別】

男

【出身／国籍】

日本／日本

【IS適正ランク】

Bランク（一般機）／Aーランク（霊子甲冑型IS）



【備考】

原作IS＜インフィニット・ストラトス＞において勝ち組人生街道をばく進している唐変木・オブ・唐変木ズ。

当作品に置いてはシリウス以外ではバカテスの明久化がデフォの愛すべきお馬鹿ちゃん。ただし、シリウスシーンでは瑞希の危機が絡んだ時の明久並に格好良くなる。（↑これまたデフォ）

基本的に秀吉を美少女扱いして秀吉と千冬に関節技やアイアンクローといった制裁を受けることが多い。

実は秀吉や咲良と同じく霊力保持者。霊力量（別名…巫力値）はシヤーマンキングの麻倉葉と同じ10万8000。が、本人は全く気付いていない。

運が良ければ、大神重工製霊子甲冑ISをゲットできる————かも？

原作キャラ？

【名前】

篠ノ之箒

【容姿】

原作通り

【年齢】

15歳

【身長】

168cm?

【性別】

女

【出身／国籍】

日本／日本

【IS適正ランク】

Cランク（一般機）／Aランク（霊子甲冑型IS）

【備考】

原作IS＜インフィニット・ストラトス＞におけるヒロイン？。別名…武士娘。

当作品に置いては愛すべきお馬鹿ちゃん・織斑一夏に何故か惚れている変な子で、バカテスにおける美波ポジの子。（惚れた理由は作者も知らない）

一夏が女の子を引っ掛けてくる度に関節技を極めようとするキャラになる予定。（その為に秀吉から関節技を教わるのを構想中）

実は秀吉や咲良、一夏と同じく霊力保持者。霊力量（別名…巫力値）はシャーマンキングの戸田久美と同じ26万。が、本人は全く気付いていない。

運が良ければ、大神重工製霊子甲冑ISをゲットできる————

原作キャラ？

【名前】

セシリアオールコット

【容姿】

原作通り

【年齢】

15歳

【身長】

162cm?

【性別】

女

【出身／国籍】

イギリス／イギリス

【IS適正ランク】

A＋ランク（一般機）／A＋＋ランク（霊子甲冑型IS）

【備考】

原作IS＜インフィニット・ストラトス＞におけるヒロイン？。別名…貴族っ娘。

当作品に置いては愛すべきお馬鹿ちゃん・織斑一夏に惚れてる変な子で、バカテスにおける瑞希ポジの子。

一夏に惚れた理由はクラス代表決定戦で真面目モードの一夏に原作と同じ様に——といった感じ。

料理の不味さは原作セシリアというか、既にバカテスの瑞希レベル。

バイオウエボン  
(つまり化学兵器)

一夏が女の子を引っ掛けてくる度に目のハイライトを消した裏モードに移行する。

実は秀吉や咲良、一夏と同じく霊力保持者。霊力量(別名…巫力値)はシャーマンキングのラキスト||ラッソと同じ36万。が、本人は全く気付いていない。

運が良ければ、大神重工製霊子甲冑ISをゲットできる————かも？

## キャラ設定（4／7 原作キャラ一部追加）（後書き）

言い忘れてましたけど、この作品の一夏は殆ど明久です。

秀吉に対して、「何を言ってるんだ、秀吉！ 秀吉は正真正銘の美少女じゃないか！！」発言をします。

一夏のイメージを壊したくない人は読まない方が賢明かもしれません。

## 追記

霊力の強さをより具体的ににする為に表現をシャーマンキングの巫力値制に変更しました。

## オリジナルIS設定（ネタバレ有り）（前書き）

試験召喚戦争（通称…試験戦争）ならぬ試験IS戦争（試I戦争）  
をやってみようかな？

## オリジナルIS設定（ネタバレ有り）

霊子甲冑IS？

### 【名称】

光武参式（秀吉機）

### 【形式番号】

午型霊子甲冑（もしくは子型霊子甲冑IS）

### 【分類】

第5世代型IS相当

### 【製造】

大神重工

### 【生産形態】

霊力保持者専用機

### 【カラーリング】

紫色

### 【搭乗者】

大神秀吉

### 【武装】

大太刀型対IS・降魔用近接ブレード 『神刀滅却』×1  
大太刀型対IS・降魔用近接ブレード 『神剣白羽鳥』×1

大刀型靈力適応式対IS用近接ブレード×1  
薙刀型靈力適応式対IS用近接ブレード×1  
靈力適応式対IS用8m機関銃×2  
靈力適応式対IS用12m機関砲×1  
靈力適応式対IS用12m狙撃ライフル×1  
靈力適応式対IS用二連装ミサイルランチャー×4  
靈力適応式対IS用四連装ミサイルランチャー×2  
靈力適応式対IS用輻射推進型自在可動有線式腕部×2  
対IS・降魔用靈子レーザー射出口×2  
靈力適応式対IS用近接シュトゥームランス×1  
靈力適応式対IS用近中距離投擲ナイフ×40

## 【第二形態】

天武二式

ワンオフ・アビリティ  
【単一機能】  
ダークマター  
『未元物質』

## 【形状・能力解説】

ファースト・シフト      セカンド・シフト  
第一形態時と第二形態時は形状に変化は無く、腕部が『光武二式』  
と同じ三本指型で脚部も『光武二式』とISの『打鉄』を足して割  
った感じ。（シャルの高速切替のように瞬時武装変換が可能）

セカンド・シフト  
第二形態・『天武二式』になると搭乗者の靈力だけでなく、地脈エ  
ネルギーも動力源に変換することができ、現存のISでは不可能な  
高出力が可能となる。

ワンオフ・アビリティ      ダークマター      ファースト・シフト  
単一機能である『未元物質』は第一形態から使用可能。搭乗者の靈  
力でこの世に存在しない物質を作り出し、それらを活用することで  
既存の物理法則を塗り替えることが可能。

また、秀吉はこの能力で天使の羽根の様な六枚一对の翼を形成する  
ことが多い。（第二形態時には地脈エネルギーを得ることで威力が



更に凶悪になる)

霊子甲冑IS？

【名称】

光武参式（咲良機）

【形式番号】

午型霊子甲冑（もしくは子型霊子甲冑IS）

【分類】

第5世代型IS相当

【製造】

大神重工

【生産形態】

霊力保持者専用機

【カラーリング】

桃色

【搭乗者】

大神咲良

【武装】

大刀型対IS・降魔用近接ブレード『**霊剣荒鷹**』×1  
対IS・降魔用エネルギー吸収・放出兵装『**轢藍の血痕**』×1

セカンド・シフト  
【第二形態】

神武二式

ワンオフ・アビリティ  
【単一機能】

『光鷹翼』

【形状・能力解説】

ファースト・シフト セカンド・シフト  
第一形態時と第二形態時は形状に変化は無く、腕部が『光武二式』  
と同じ三本指型で脚部も『光武二式』とISの『打鉄』を足して割  
った感じ。

両腕部にはエア・ギアのドントレスが使用していた轟の玉璽、**両脚**  
部には鰐島罟が使用している牙の玉璽があり、2つを合わせて『**轢**  
**藍の血痕**』と呼ばれる武装となる。

『**轢藍の血痕**』は実弾以外のBT兵器及び空間圧兵器を腕部兵装か  
ら吸収し、そのエネルギーを脚部兵装から真空波、もしくは真空壁  
として放つ兵装。

セカンド・シフト  
第二形態・『神武二式』になると、『天武二式』と同じく搭乗者の  
霊力だけでなく、地脈エネルギーも動力源に変換することができ、  
現存のISでは不可能な高出力が可能となる。

ワンオフ・アビリティ セカンド・シフト  
単一機能である『光鷹翼』は第二形態から使用可能。搭乗者の霊力  
で攻防一体の分析不能なエネルギー場を発生させ、重力操作なども  
可能となる。

扱い方次第ではマイクロブラックホールを発生させることも可能で、  
それに飲み込まれても『光鷹翼』を発生させていれば生還できる。

靈子甲冑IS？

【名称】

シエンロン  
甲龍二式

【形式番号】

未型靈子甲冑（もしくは丑型靈子甲冑IS）

【分類】

第5世代型IS相当

【製造】

大神重工

【生産形態】

靈力保持者専用機

【カラーリング】

赤紫色

【搭乗者】

鳳鈴音

【武装】

分離式機動打撃兵装『乾坤圈』けんこんけん × 2

分離式球状機動射撃兵装『金磚』きんせん × 2

近中距離対応格闘兵装『火尖鎗』かせんそう × 1

分離式機動捕獲兵装『九竜神火罩』きゅうりゅうしんかとう × 6

高速機動ユニット『風火輪』<sup>ふうかりん</sup> × 2

斧刀型対IS・降魔用近接ブレード『龍紋鬼灯丸』 × 1（<sup>セカンド・シフト</sup>第二形態時の追加武装）

<sup>セカンド・シフト</sup>【第二形態】  
ナタク  
???

<sup>ワンオフ・アビリティ</sup>【単一機能】  
『金蛟剪』

### 【形状・能力解説】

中国の第三世代型IS『<sup>シエンロン</sup>甲龍』の設計データをベースに開発された大神重工製霊子甲冑IS。

<sup>ファースト・シフト</sup>第一形態時の形状は、『<sup>きんせん</sup>甲龍』の衝撃砲『龍咆』が封神演義（フジリユー版）に登場する『<sup>きんせん</sup>金磚？』になった以外は『<sup>きんせん</sup>甲龍』と大して変化なし。

<sup>セカンド・シフト</sup>第二形態時には、『<sup>きんせん</sup>金磚』の部分が封神演義（フジリユー版）の最終形態？？の『<sup>きんせん</sup>金蛟剪』パーツに変化する以外は『<sup>きんせん</sup>甲龍』と大して変化なし。

<sup>ワンオフ・アビリティ</sup>第二形態に移行すると、単一機能が使用可能となり、黄金の龍の様な形状をしたエネルギー攻撃が可能となる。

霊子甲冑IS？

【名称】  
さいが  
雑賀一式

【形式番号】

未型霊子甲冑（もしくは丑型霊子甲冑IS）

【分類】

第5世代型IS相当

【製造】

大神重工

【生産形態】

霊力保持者専用機

【カラーリング】

山吹色

【搭乗者】

シャルロットII デュノア

【武装】

分離式機動防御兵装『ホルスタービット』×16

分離式機動射撃兵装『ライフルビット』（ピストルビット）×14

大剣型霊力適応式対IS用近接ブレード×2

対IS・降魔用荷電粒子式散弾銃×2

対艦・IS・降魔用大型ミサイル×2

対艦・IS・降魔用小型ミサイル×46

セカンド・シフト  
【第二形態】

八咫鴉

ワンオフ・アビリティイ

## 【単一機能】

『番天印』

## 【形状・能力解説】

フランスの第二世代型IS『疾風の再誕』ラファール・リヴァイヴとイギリスの第三世代型

IS『蒼い雫』ブルー・ティアーズの設計データをベースに開発された大神重工製霊子

甲冑IS。

ファースト・シフト

第一形態時の形状は

ラファール・リヴァイヴ・カスタム

『疾風の再誕・改』と機動戦士ガンダム00の

ガンダムサバーニヤを融合させた感じ。

セカンド・シフト

ワンオフ・アビリティイ

第二形態時には、単一機能である追尾機能付荷電粒子砲『番天印』

ファースト・シフト

が右腕に展開され、第一形態時より高度なマルチロックシステムが

起動する。

霊子甲冑IS？

## 【名称】

双武二式

## 【形式番号】

申型霊子甲冑（もしくは寅型霊子甲冑IS）

## 【分類】

第5世代型IS

## 【製造】

大神重工

【生産形態】

複座式霊力保持者専用機

【カラーリング】

白銀色

【搭乗者】

大神秀吉&鳳鈴音

【武装】

大太刀型対IS・降魔用近接ブレード『神刀滅却』×1

大太刀型対IS・降魔用近接ブレード『神剣白羽鳥』×1

薙刀型霊力適応式対IS用近接ブレード×1

斧刀型対IS・降魔用近接ブレード『龍紋鬼灯丸』×1

霊力適応式対IS用輻射推進型自在可動有線式腕部×2

対IS・降魔用霊子レーザー射出口×2

霊力適応式対IS用近中距離投擲ナイフ×40

分離式機動打撃兵装『乾坤圈』×2

分離式球状機動射撃兵装『金磚』×2

近中距離対応格闘兵装『火尖鎗』×1

分離式機動捕獲兵装『九竜神火罩』×6

高速機動ユニット『風火輪・改』×2

分離式機動斬撃兵装『シザービット』×10

ワシオフ・アビリティ

【単一機能】

『咸卦法』

【形状・能力解説】

『天武二式』と『?・?・?』<sup>ナタク</sup>のスペックデータをベースに開発された大

神重工製複座式霊子甲冑 I S。

ナタク

形状は『天武二式』と『? ? ?』、サクラ大戦の『双武』、機動戦士ガンダム 00 のガンダムハルート (GN バリーニアユニット付き) を融合させた感じ。

セカンド・シフト

セカンド・シフト

第二形態が存在せず、敢えて言うなら最初から第二形態に至っている霊子甲冑 I S。

光武参式 (秀吉機)

ナタク

と甲龍二式の I S コアが使用されており、『天

武二式』と『? ? ?』

ナタク

の単一機能が使える他、

ワンオフ・アベリテイ

新たな単一機能を発現。

新たな単一機能・

ワンオフ・アベリテイ

『咸卦法』はぶっちゃけるならガンダムハルート

に搭載されているマルチシステム。(つまり、搭乗者 2 名の反射

と思考の融合)

霊子甲冑 I S ?

## 【名称】

暁一式

## 【形式番号】

未型霊子甲冑 (もしくは丑型霊子甲冑 I S)

## 【分類】

第 5 世代型 I S 相当

## 【製造】

大神重工



## 【生産形態】

霊力保持者専用機

## 【カラーリング】

黄金色

## 【搭乗者】

織斑一夏

## 【武装】

大刀型霊力適応式対IS用近接ブレード『雪片・改』×1

対IS・降魔用荷電粒子式ライフル『ドレイクハウリング』×1

対IS・降魔用大型荷電粒子砲×2

## 【第二形態】 セカンド・シフト

雪羅

## 【単一機能】 ワンオフ・アビリティ トランザム

『TRANS-AM・バースト』

## 【形状・能力解説】

『白式』と『暮桜』のISコアを使用した世界初ツインコアシステム搭載の大神重工製霊子甲冑IS。

ファースト・シフト  
第一形態時の形状は機動戦士ガンダム00のブレイヴ指揮官用試験機。  
セカンド・シフト  
第二形態時の形状は、ブレイヴ指揮官用試験機の左腕が白式の『雪羅』に変化したもの。

グラフ・スぺシャル  
ツインコアシステムを搭載したことでシールドエネルギーが『白式』の4倍にまで跳ね上がり、霊力運用の燃費も格段に良くなっている。  
ワンオフ・アビリティ  
また、『白式』と『暮桜』の単一機能が使える他、新たな単一機能  
ワンオフ・アビリティ

を發現。新たな単一機能・『TRANS-AMバースト』はその名の通りダブルオーライザーの『TRANS-AMバースト』と同一。効果範囲内に存在するIS装着者のコア・ネットワークによる共鳴を強制的に行い、思いを繋げると言うものである。

ワンオフ・アビリティ  
トランザム  
靈子甲冑IS？

【名称】  
アイゼンクライト？型

【形式番号】  
未型靈子甲冑（もしくは丑型靈子甲冑IS）

【分類】  
第5世代型IS相当

【製造】  
大神重工

【生産形態】  
靈力保持者専用機

【カラーリング】  
藍色

【搭乗者】

セシリアⅡオルコット

### 【武装】

分離式機動遊撃防衛兵装『シールドビット』×18

分離式機動射撃兵装『ライフルビット』×12

対IS・降魔用銃剣付荷電粒子小銃×4

対IS・降魔用荷電粒子式狙撃銃×2

対艦・IS・降魔用小型ミサイル×8

### 【第二形態】

セカンド・シフト  
ブルー・ウオーター  
蒼き清水

### 【単一機能】

ワンオフ・アビリティ  
リフレク・シヨット  
『反射射撃』

### 【形状・能力解説】

破損した『蒼き雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>のISコアを再利用した大神重工製霊子甲冑IS。<sup>ブルー・ティアーズ</sup>（一応、アイゼンクライト系列の後継機。光武系列とは使われている技術が若干違う）

第一形態時の形状は『蒼き雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>とサクラ大戦の『アイゼンクライト？』、機動戦士ガンダム00のケルデイルガンダムGNHW/Rを足して割った感じ。

第二形態時は形状自身に変化はなく、能力が追加されただけ。（地

脈エネルギーの使用はデフォ

単一機能である『反射射撃』<sup>リフレク・シヨット</sup>は第二形態時のみ使用可能。能力は自機の放ったエネルギー攻撃を実弾の様に跳弾させ、より複雑な軌道で狙撃対象を狙い撃つというもの。

霊子甲冑ISでは唯一AI搭載型の機体で、分離式機動兵装の複雑な操作はAIによって行われることが多い。



## オリジナルIS設定（ネタバレ有り）（後書き）

つか、ぶっちゃけバグの様な機体だね。

## プロローグ―秀吉視点―（前書き）

取り敢えず、今回は秀吉視点です。

## プロローグ―秀吉視点―

男尊女卑――それは大昔の風習。男女平等――それは少し前までの風習。女尊男卑――それが現在の風習じゃ。

宇宙空間での活動を想定して作られたマルチフォーム・スーツ――インフイニット・ストラトス――IS。それは宇宙進出へ使用されず、機動兵器へと転用された。

さて。何故、ワシがいきなりISなるものの解説を始めたかというと、これが現在の女尊男卑の世界を形成した要因だからじゃ。

機動兵器へと転用されたISなんじゃが、それを扱えるのは女性だけなんじゃ。世界でたった2人の例外を除いて――

その例外の1人は連日ニュースで報道されとる織斑一夏<sup>アホむらばか</sup>じゃ。ワシの幼馴染の1人で、ワシのことを昔から美少女とのたまう愚か者じゃ。

そして、もう1人の例外はこのワシ――大神秀吉<sup>バカ</sup>じゃ！言っておくが、ワシは美少女ではなく男じゃ。……ま、一夏は天然で普通のISを扱え、ワシはちよつとした反則で特殊なISを扱ってるんじゃないがな。

ワシの天才的頭脳で篠ノ之束によって生み出された解析不能とされるISコアを解析し、大昔――大正時代に御先祖様達が使用して

いた霊子甲冑。その技術とIS技術を融合させて完成させた霊子甲冑IS。

ISコアを解析できただけでも自画自賛ものなんじゃが、ワシはそのコアを改造し、通常のISと異なり老若男女に関わらず扱えるものとしたのじゃ。うゝむ……、自分の才能が恐ろしい。

ま、霊子甲冑ISの唯一の難点は使用者に強大な霊力を保有してることが求められることなんじゃがな。霊力を持たぬ者には扱えんのだのじゃ。

幸いにもワシと双子の妹は御先祖様達から受け継いだ強大な霊力があるから扱える。恐らく、ワシらの持つとる霊子甲冑ISは現存するどのISをも凌駕する物じゃろう。

さて。IS学園の入学試験は既に終了してしまっておるが、我が大神重工はIS学園にIS関連の製品で何かと融通を利かせてもおる。

少し交渉すれば特別に試験を受けさせて貰えるはずじゃ。ま、こうなったのも全ては一夏のせいなんじゃがな。

ワシの双子の妹である咲良は一夏に惚れとって、一夏がIS学園に入れられるとニュースで報道されたことで、一夏が心配でIS学園に入ると言い出したんじゃ。

普段は我儘など言わんから父上や母上も超ノリ気で、ついでにワシにも入学しろと言い出す始末じゃ。これが霊子甲冑IS誕生の秘話といった所かのう？

数日後にはワシも世界で2番目にISを動かせた男として報道され



ることだろう。その点は少し楽しみじゃない。

## プロローグ―秀吉視点―（後書き）

次回は咲良視点で第一話を投稿します。

これはi nネギまの話毎の視点切り替え式書式のテストケース的なものでもあったりします。

## 第1話―咲良視点―（前書き）

こんばんは、エミリアです。

話毎の視点切り替え方式。取り敢えず、こんな感じでi n ネギまでも進めて行こうかと思ってます。

ってか、この二次創作の一夏は本当に明久です。シリアスとかできるのか今から不安です。

## 第1話―咲良視点―

はじめまして、皆さん。私は大神秀吉の妹・大神咲良です。ちょっとした裏技で無事にIS学園への入学を果たした私と兄様は、現在一年一組にいます。

このクラスの生徒さんが今日から一年間の苦楽を共にする仲間ということです。というか、このクラスには非常に懐かしい人が揃っています。

私の想い人で幼馴染の織斑一夏と、幼馴染で恋の好敵手ライバルである篠ノ之箒。一夏がIS学園に入ることが判明したから、私も飛び入りの感じで入学したんですが、まさか同じクラスになれるとは思いませんでした。

もしかしたら父様や母様、兄様が手を回してくれたのかもしれない。それにしても一夏は居心地が悪そう。当然と言えば当然かもしれないけど……。

周囲のほぼ全員が女の子ばかりだし、兄様も容姿が男というより女に近いから一夏も気付いてないのかもしれない。そんなことを考えていると入学式や新学年で定番の自己紹介の順番が回ってきた。

「次、大神咲良さん。自己紹介をお願いします」

「はい！皆さん、はじめまして。大神咲良と言います。趣味は料理で、特技は剣術。特に剣術は北辰一刀流免許皆伝で、居合抜きが得意です。

これから皆さんが扱うと思われる第二世代型国産IS『打鉄』は日本刀型のIS用近接ブレードが主武装なので、刀の扱い方を知らない人は是非とも聞きに来て下さい。

あと、実家がISスーツやパーツ製造を行ってる大神重工ということもあって専用機持ちですが、代表候補生ではありませんので気軽に声を掛けてくれると嬉しいです」

私は自己紹介を終えると自身の席に着いた。一夏の方を見てみると驚いた顔をこっちに向けていた。どうやら、自己紹介まで全く気付いてなかったみたいですね。

他のクラスメイトの皆さんも驚いた顔で私を見ています。大神重工はIS製造企業としては世界でもトップクラスと言っても過言ではないから、その令嬢である私がIS学園に入学したことに驚いたのかもしれない。

次は兄様の番ですね。一夏はどんな反応をするでしょうか？昔は兄様のことを美少女だと言っては殴られていましたが……。

私が思うにそれも改善されてることでしょう。何故なら、小学校卒業の時に一夏は私と約束してくれましたから。ま、毎日お味噌汁を作ってあげるって言ったら同意してくれましたし……。 (照)

私がそんなことを考えてると、後ろの席の兄様が席を立ち、自己紹介を始めた。

「ワシの名は大神秀吉。先ほど自己紹介しておった大神咲良の双子の兄じゃ。趣味は演劇鑑賞、特技は声帯模写じゃ。IS学園では部活動への参加が義務付けられとるようじゃから、演劇部に所属するつもりじゃ。」

ちなみに、ワシはこのような容姿からよく性別を間違えられるので、最初にはっきりと公言しておくのじゃ。

先ほどの兄発言からも分かる様に、ワシは正真正銘の男じゃ！美少女などとのたまう者には容赦なく関節技を掛けるので、そのつもりで—————」

「何を言ってるんだ、秀吉！！秀吉は正真正銘の美少女じゃないか—————って、秀吉！？その関節はそっちには曲がらなッ—————」

……………前言を撤回します。一夏はどうやら一夏のままみたいです。未だに兄様のことを美少女と信じてる様です。

「ワシのことを怒らせるとこうなるのじゃ。皆の衆もよく覚えておくのじゃぞ？」

兄様がそういうとクラスメイト全員が一丸となって首を縦に振った。SHRを進行している副担任の山田先生も涙目になりながら首を縦に振ってる位です。

「久し振りの再会だからって酷いじゃないか、秀吉！俺とお前は結婚を約束した仲—————って、秀吉！？『毒蛭観音開き』は流石の俺も死ぬァああァあ—————」

「ワシをもっと怒らせるとこうなるのじゃ。皆の衆も頭の中に叩き込んでおくのじゃぞ？」

「さ、サー！イエッサー！」

「さ、サー！イエッサー！！」

「さ、サー！イエッサー！！！！」

私とモザイクが掛かってる一夏だった物体を除くクラスメイト全員と山田先生は一丸となって直立不動で兄様に敬礼した。

というか、一瞬の内に一夏の所に移動した兄様の異常な程の速度に何故誰も突っ込みを入れないんだろう？そんなことを思っていると、教室の前の方の入口から誰かが入って来た。

「新学期早々騒がしいぞ！——と、何だこの状況は？」

教室に入って来たのは織斑千冬さん。第1回IS世界大会で、総合優勝と格闘部門優勝者となった女傑。  
モンド・グロツ

IS操縦者にとっては憧れの存在で、現在モザイクの掛かってる一夏の実のお姉さん。将来的には私の義姉様になる方です。  
ねえ

「大神兄。これは一体どういう状況だ？」

「はい。その織斑アホむらバカ一夏がワシのことを美少女扱いしたので制裁を下し、クラスの皆の衆にもワシを女扱いせぬように頼んでおった所じゃ」

「成程。しかし、何故クラス全員と山田君がお前に敬礼している？」

「それはワシにも分かりかねるのじゃ」

「ふむ……。まあ、いい。それよりもその爺言葉何とかならんのか？」

「これはワシの性分故なんとも……」

「昔からお前はそうだったな。時間も迫ってることだ。席に戻れ」

「了解じゃ」

兄様は千冬義姉様にそう返答すると、私の後ろにある自分の席に戻って来た。そして、千冬義姉様はモザイク化してる一夏に蹴りを食らわした。

「いつまで寝ている。この馬鹿者が」

「はっ！閻魔大王！？俺はついにあの世に来てしまったのか！！？」

「誰がスピリット・オブ・アースの管理者だ。下らんことを言っていないで自己紹介をしろ。この大馬鹿者が」

「ぶげっ！」

復活早々に千冬義姉様の顔を見ての一言がそれですか、一夏？それは出席簿の背表紙でチョップされても文句は言えませんか？

「いってー！ちょっとは手加減しろよな、千冬姉」

「まだ殴られ足りん様だな？」

「ちよっ、タンマ！自己紹介するからタンマ！！」

「なら、さっさとしろ。あと、私のことは織斑先生と呼べ」

「はいはい」

「はいは1回だ」



「は、はい！……えー。えっと、織斑一夏です。さっき自己紹介をしていた大神秀吉とは恋人関係——って、頭蓋が締め付けられるみたいに痛い！」

「ってか砕ける！！秀吉、千冬姉！このままだと俺の頭蓋が卵の殻みたいに砕けちゃう！！」

一夏が兄様の逆鱗に触れることを言った次の瞬間、兄様は高速移動で一夏の前に立ちアイアンクローをしていた。そして、一夏は後頭部から千冬義姉様のアイアンクローも喰らっている。

「ワシもそろそろお主の妄言に付き合いきれなくなってきたのう。そろそろ真剣に1回逝ってみるかの？」

「お前は自己紹介も満足にできんのか。あと、昔から大神兄に迷惑を掛けるなど言ってるだろ」

「ちょっ！2人ともマジでヤバいって！！このままだと出たらいけない何かがプチュツと出ちゃう！！」

この後、一夏がどうなったか私の口からは何とも言えない。ただ言えることはこの時点で兄様と千冬義姉様が一年一組のヒエラルキーのトップに君臨したことがほぼ確定したこと位です。

## 第1話―咲良視点―（後書き）

という訳で、第1話でした。次は誰視点で書こうか……。

ちなみにこのIS二次創作では観察処分者的な一夏に箒とセシリア、ラウラ、咲良が惚れる予定です。

一体この一夏のどこに惚れたのか作者も甚だ疑問です。

## 第2話―セシリア視点―（前書き）

セシリアのお嬢様口調……。結構難しいです。

## 第2話―セシリア視点―

はじめまして―――と言わねばならぬかしら？ 私はイギリス代表候補生わたくしのセシリア・オールコットですわ。

イギリス製第三世代型IS『蒼い雫』ブルー・ティアーズ マスターの搭乗者になった私は、稼働データと戦闘経験値を得る為に極東の島国・日本に設立されたIS操縦者養成機関であるIS学園にやってきました。

今日はIS学園の入学式であり、私が3年で代表候補生から正式な代表となる為にIS技術を研鑽する為の門出の日。

そんな大事な日でもありますのに、とても不愉快なことが起きましたの。織斑一夏と大神秀吉。男性でありながらISを起動できると、連日ニュースで報道されていた存在。

その2名が私と同じクラスになりましたの。……大神秀吉に関しては容姿がアレなので保留ですが、織斑一夏―――気に入らせんわ。男のくせにISを動かせるというだけでも生意気ですのに、それ以上に入らないのは―――

「そう言えば、さっきの自己紹介の時に織斑君、千冬様のことを千冬姉と呼んでたよね」

「同じ織斑だし、もしかして姉弟とか？」

「なら、ISを動かせるのも納得かも……」

「大神君も千冬様と顔見知りっぽかったよね？」

「織斑君とも知り合いみたいだし、幼馴染とかかな？」

「あー！それは有り得るねー」

そう！織斑一夏が私を含む代表候補生にとって目標や憧れの存在である第1回IS世界大会の総合優勝者である織斑先生の弟ということモンド・グロツン プリユンヒルデですわ！！

自己紹介の時に同じ男性を恋人という様な極東の猿！その様な者が輝かしい功績を持つ総合優勝者の弟だなんて……。神がお許しになられても、この私セシリアⅡオルコットは許しません！！

そんなことを思っていた私に、ISの神は嫌がらせとしか思えない試練をお与えになりました。それは実践で使用されるIS各種装備の特性に関する授業の時の話です。

「それでは、この時間は実践で使用する各種装備の特性についての説明を————ああ。その前に、再来週のクラス対抗戦に出る代表者を決めないといけないな」

「はーい！！織斑君がいいと思います！」

「おっ！俺！？」

「ナイスアイデア！」

「私は大神君を推薦します！」

「わ、ワシかのう？」

「ふむ。自薦他薦は問わん。他に候補者はいないか？なら、今から織斑、大神両名による代表投票を始めるが？ちなみに他薦された者

に拒否権など存在しない。選ばれた以上は覚悟しろ」

「なっ!!?」

「なんという独裁政権。そこに痺れもしなければ、憧れもせんのだ  
や」

ただISを扱える男性と言うだけでクラス代表に選ばれる。そんなことは私にとって屈辱以外の何ものでもありませんわ。クラス代表は客寄せのパンダではありませんのよ!!

そんなことを思いながら、私はその場で立ち上がり織斑先生に異議を申し上げます。

「納得できませんわ!! その様な選出は認められません! 大体、男が——特に男性を恋人という様な猿と、男か女か分からない様な性別不詳の方がクラス代表なんて、良い恥さらしですわ!

このセシリア||オルコットにその様な屈辱を1年間味わえとおっしゃるんですか!? 實力からいけば、私がクラス代表になるのは必然です!

いいですか!? クラス代表は實力トップがなるべき。それは私ですわ。何せ私、入試で教官を倒したエリート中のエリートですから」

「ふむ…。つまり、オルコットは教官を倒す實力者ならクラス代表になる資格があると言いたい訳だな?」

「え? ま、まあ端的に言えばそういうことになりますわね」

「ならば、大神兄妹にも資格はあるな。何せ、大神兄はこの私を倒す程の實力者だ。技術だけならIS世界大会の部門優勝者と同等以上  
上だろう。」

大神妹は私と引き分けだったが、ISの高機動運用に関しては部門優勝者と同等。それ以外も国家代表レベルだ。實力主義なら大神兄が問答無用でクラス代表だな」

なっ！？あんな性別不詳の方が、第1回IS世界大会の総合優勝者である織斑先生を倒した！？何の冗談ですの？全く以て笑えませんか。そんなことを考えていると、横から猿が口を挟んできました。

「入試って、あれだろ？IS動かして戦うやつ。それなら俺も倒したぞ、教官——って、痛い！！」

「馬鹿者が。アレは瞬間加速で突っ込んできた教官を避けたただけだろう。結果、教官はそのまま壁に突っ込んで自滅。あんなのは勝ったとは言わん」

わ、私だけではなかった？こんな極東の島国に住んでいる猿や田舎者と同列？こんな屈辱、今まで受けたことがありますわ！！

「わ、わざわざこんな島国にまで来た上に、極東の猿と比べられるなんて……。このような屈辱、耐えられませんか！！」

「イギリスも島国ですし、世界一美味しくない料理くらいしかお国自慢ないんじゃないですか？」

「よく言った、咲良！そうだぞ！イギリスなんてジャックⅡハンマーしか喰えない岩みたいなパンと、魔術協会位しか自慢できるもの無いだろ！！」

「…………大馬鹿者が。それは漫画とゲームだけの話だ」

ジャックⅡハン…………？魔術協…………？この猿は一体何を言ってるのかしら？と、取り敢えず祖国を馬鹿にされたことだけは分かりますわ！

「あ、あなた方のようなお馬鹿な猿と性別不詳な人物の妹が私の祖国を侮辱するとはいい度胸です！決闘ですわ！！」

私は自分の机を両手で叩きながら織斑一夏と大神咲良に決闘を申し込みました。すると、急に今まで受けたことの無い様な威圧感プレッシャーが襲い掛かってきました。威圧感プレッシャーを感じる所に視線を向けると、そこには――――

「ふ、ふふふふふ……。自己紹介でワシのことを女扱いするでないと言うておいたのに、どうやら一夏並に学習能力の無い者がおったようじゃのう？」

「お、大神兄……？落ち着け！多分、恐らくだがオルコットに他意は無かったはずだ」

「他意が無いのに、ワシのことを2回も性別不詳などと言うのかのう？それは可笑しくないかのう？……どちらにせよ、三下に格下扱いされるのは我慢ならん。その決闘、ワシも参加させて貰うのじゃ」

「いや、お前が参加したら決闘ではなく虐殺になるだろう……」

「そんなのは関係無いのじゃ。……さて、その金髪ロール」

「き、金髪ロー……！！？」

「丁度いい見せしめじゃ。このクラスで二度とワシのことを女扱いできません様にする為の人柱にしてやるのじゃ」

「へ、変な言葉遣いをされる女性みたいな方に私が負ける筈がございませんわ！！」

「……仏の顔も三度までじゃ。己の矮小さを魂にまで刻んでやるのじゃ」

「それはこちらの台詞ですわ！私と『蒼い雫』ブルー・ティアーズがあなた方に身の程



と言うものを教育して差し上げますわ!!」

「言っておくが、ワシの『光武参式』に常識は通じんぞ?」

「……………あー。取り敢えず、アリーナの使用申請などもあるからな。勝負は1週間後の月曜、放課後に執り行う。それぞれ用意しておく様に」

……1週間後。このセシリアオールコットと『蒼い雫』<sup>フルー・ティアーズ</sup>が身の程と  
いうものを、骨の髄から魂にまで刻み込んで差し上げますわ!!

## 第2話―セシリア視点―（後書き）

次は誰視点にしようかな？

一夏か箒か、はたまた千冬か。それとも秀吉か……。超迷います。

### 第3話―一夏視点―（前書き）

取り敢えず、一夏視点です。

ってか、今まで書いて来た小説で一番の短文です。

### 第3話―一夏視点―

あゝ……。まずは、はじめましてだな。俺は世界で唯一ISを動かせる男、織斑一夏だ。

え？唯一じゃない？秀吉がいる？おいおい。秀吉は立派な美少女じゃないか。だから、世界でISを扱える男は俺だけだ。

それにしても驚いた。まさか、秀吉と咲良がIS学園に入学するとは……。あつ、あと箒もな。秀吉と咲良とは3年振りで、箒とは6年振りの再会だ。

秀吉は相も変わらずツンデレで、咲良はおっとり。箒はミスター・ブシドーって感じだったな。……。あつ！箒は生物学上は女だから、ミス・ブシドーか？

って、そんなことはどうでもいい。それよりも聞いてくれよ。IS学園に入学して早々、面倒なことになったんだよ。

セシリアオールコットっていう人のことを猿って連呼する金髪お嬢様っぽいイギリス代表候補生に決闘を申し込まれたんだよ。

一応、俺にも男のプライドってのがあからな。女から売られた喧嘩を逃げる訳にはいかず、了承した訳だ。が、ここで問題が発生した。

俺は入試の時の20分しかISを動かしたことがない！基礎知識も全くない！！入学前に渡されたテキストは古い電話帳と間違っ捨てちまったからな。今日の授業も全く理解できなかった。

どうすれば……。そうだ！秀吉に教えて貰おう！！善は急げだ！！いざ行かん！秀吉の下へ！！

そんなことを思いながら勢いよく席から立ち上がった所、今日のSHRを進行してた副担任の山田先生が現れて、声を掛けてきた。

「よかった。織斑君、まだ教室にいたんですね」

「あ、山田先生」

「えっとですね。寮の部屋が決まりましたよ」

「え？確か、1週間は自宅から通学するって聞いてましたけど？」

「事情が事情なので、無理矢理ねじ込んだそうですよ」

「でも、荷物とかあるんで一度家に帰らないと」

「あつ、それなら――」

「それなら私が手配してやった。着替えと携帯の充電器があれば十分だろう？ありがたく思え」

俺が山田先生と話していると、第三者が割り込んできた。千冬姉だ。

「二人部屋だからルームメイトと仲良くしろ」

「二人部屋？ってか、ルームメイトがいるのかよ！？……はっ！もしかして、ルームメイトは秀よ――」

「言っておくが、ルームメイトは大神兄ではないぞ。お前のルームメイトは篠ノ之だ。大神兄は大神妹と同室で、お前の部屋から一番

遠い所だ」

「何でだよ！秀吉は男だろ！！兄妹とは言え、男女が同室なのは問題だ！！血の繋がりの無い他人なら尚更だ！！」

「……貴様。今日、大神兄を美少女と言っていただろう。矛盾しているぞ。…取り敢えず、今ので確信した。今後、貴様を大神兄と同室にすることはあり得ない」

千冬姉はそう言い終えると、俺に部屋の鍵を渡して部屋番号を教え、山田先生を引き連れて去って行った。

その後、俺は寮へと向かった俺は部屋の前に着くと取り敢えずノックをした。箒が着替え中だったりする可能性もあるからだ。

で、ノックに反応が全く無かったんで部屋に入り、精神的に疲れたこともあってベッドに転んだ。それから間もなく箒が現れた。

どうやら箒はシャワーを浴びてたらしく、体にタオルを撒いた状態で俺の前に現れ、俺は問答無用で竹刀でボコられた。

そして、その翌日から決闘当日まで俺は箒と剣道の鍛錬をすることになった。当初はI Sについて教えて貰う予定だったが、いつの間にか剣道だけになっていた。

唯一の救いは、剣道の鍛錬に咲良が付き合ってくれたことで昔の感を取り戻し、僅か1週間で箒とまともに渡り合えるレベルになったこと位か。

で、現在俺は決闘が行われる第3アリーナに来ている。すぐ傍には箒と咲良がいる。ってか、箒に言って置くことがあるな。

「なあ、箒…」

「なんだ、一夏？」

「この1週間、剣道しかしてこなかったんだが…。ISのこと教えてくれる約束はどうなったんだ？」

俺がそう質問すると、箒は露骨に顔を逸らした。そんな箒に咲良は呆れた顔をしている。

「え！？一夏、ISのこと知らずに今日まで剣道しかやって来なかったの！！？」

「あ、ああ。当初は箒に教えて貰う予定だったんだが……」

「仕方ないだろう。一夏のISもまだ来てないんだから！！」

「そうだとしても、基礎知識を教えるとかできたんじゃない？……？」

「そうだぞ！剣道の鍛錬が終わった後でもできただろう」

「……………」

こいつ、だんまりを決め込む気だ！そんなことを思っていると山田先生と千冬姉がやって来た。

「あっ！いました！！」

「山田先生。どうしたんですか、そんなに慌てて……」

「あのですねっ、来ましたっ！織斑君の専用IS」

「へ？」

「ピットに搬入してます」

「え？あの――」

「時間ありません。急いで」

「アーリーナを使用できる時間は限られている。ぶっつけ本番のものにしろ」

山田先生に背中を押され、千冬姉にそう言われながら行きついた先には国産量産型IS『打鉄』とは全く違うISがあった。

「はいっ！これが織斑君の専用IS『白式』です」

『白式』――これが俺の専用機。『白式』を見てそんなことを思いながら山田先生に従って『白式』を装着する。

……あつ！専用機と言えば、秀吉はどうしたんだ？千冬姉にでも聞いてみるか？

「千冬姉、秀吉はどうしたんだ？」

「大神兄なら――」

「兄様は昨日から専用機の微調整の為に大神重工に行ってます。もう少ししたら着くと思います。」

ちなみにこの決闘は兄様と一夏、オルコットさんのクラス代表決定戦ですから、オルコットさんと一夏の内、勝った方と兄様が戦うことになってます」

成程。秀吉にかっこいいところを見せられないのは残念だが、あの



金髪に勝って秀吉と相対するのもありか。んじゃ、ちやつちやつと勝ちに行きますか。

### 第3話―一夏視点―（後書き）

っと言う訳で、第3話でした。

次回は誰視点がいいかな？

#### 第4話―エミリア（作者）視点―（前書き）

お久しぶりです。創作意欲と執筆能力が『TRANS-AM』トランザム終了後のガンダム並に低下したエミリアです。

短いかもしれませんが、取り敢えず完成したので投稿しました。

ちなみに今回の話は一夏VSセッションです。

## 第4話―エミリア（作者）視点―

えー、こんばんは。物語に関しては初介入の作者です。エミリアいきなりですが、前回までのあらすじを端的に説明しましょう。

世界最強の霊能力者・大神秀吉（性別…秀吉）は霊子甲冑ISを開発し、今の世の風潮である女尊男卑に真っ向から反逆することにした。

そして、その第一歩としてIS学園に双子の妹である咲良と共に入学したのだが、そこで思わぬ出会いを果たすのでした。

3年振りに再会した愛すべきお馬鹿ちゃんにして世界で唯一ISを操縦できる男・織斑一夏と、5年振りに再会した世にISを生み出した天才科学者・篠ノ之束の実妹・篠ノ之箒との出会いです。

そして、我らが主人公である大神秀吉と愛すべきお馬鹿ちゃんにして唐変木・オブ・唐変木ズである織斑一夏は、ひよんなことからクラスメイトでイギリス代表候補生であるセシリアⅡオルコットと決闘することになったのです。

大神秀吉が所持する霊子甲冑ISは現存するISの世代に換算するなら第5世代相当機。知らぬとは言え、2つも世代差のある機体に対してセシリアはどの様に戦うのか？

また、現在の世界の風潮に反逆する為の第一歩とも言える決闘に、大神秀吉はどのようにして戦うのか？乞うご期待！！

———っという訳で本編へと移行したいと思います。現在、秀吉は専用機である『光武参式』の最終調整を終えてIS学園へと戻ってる最中、というか既に学園の敷地内でアリーナに向かってる最中です。

そして、アリーナの方はどうなってるかというと、既にセシリアvs一夏の決闘が始まってる状態ですね。ちなみに、箒と咲良は千冬さんと山田先生と一緒に管制ルームにいます。

「さあ、踊りなさい！私と『蒼い雫』の奏でる円舞曲で！！」

「悪いが俺は生粋の日本人でね！円舞曲なんぞ踊ったことが無いよ！！」

「では、私が教えて差し上げますわ！！」

『蒼い雫』の主武装である『スターライトmk？』の攻撃をギリギリで避けた一夏にセシリアが言葉を告げると、一夏は皮肉った様に返答した。

が、その皮肉にセシリアは更に皮肉で返し、一定の距離を保ちながら『スターライトmk？』で再び一夏を狙い撃った。

しかし、その攻撃は一夏には当たらない。試合開始直後の不意打ちの様な先制攻撃なら兎も角、既に試合が開始されている状況で一夏は立ち止まって'sになる様な馬鹿ではないから。

他には一夏が咲良から『蒼い雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>が射撃主体の機体であることと、剣士が射撃武器と対峙した時の対処法を聞いていたことが要因でしょう。

この決闘が始まるまでの1週間、咲良は一夏に不公平が無い程度に対戦相手であるセシリアの情報を与えていた訳です。

あっ！咲良が『蒼い雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>の情報を知っていたのは、IS産業で大手である大神重工の令嬢だからだったりします。

IS産業の会社は大多数が他社より良い物を、他国より優秀な物を、と企業間の情報収集戦を行ってるものですから。

ちなみに、剣士が射撃武器と対峙した時の対処法は、銃口と引き金に掛かってる指を注意した方がいいと言う口にするとても単純なものだったりします。

もつとも、口では簡単に言っても実行することが超難しい事の典型だったりするんだけどね？——っと、こんな解説をしてる内にセシリアが『蒼い雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>の第三世代型兵器であるビット『ブルー・ティアーズ』を出した。

「ちょこまかと鬱陶しいですわね！けれど、『ブルー・ティアーズ』の全方位攻撃をかわせますかしら？」

セシリアがそう告げると同時に4基の『ブルー・ティアーズ』が一夏を取り囲み、レーザーを放つ。そして、全方位攻撃ということもあり、一夏は攻撃を喰らい『白式』のシールドエネルギーを消費す

る。

けど、一夏もただではやられてません。シールドエネルギーを削られながらも4基の『ブルー・ティアーズ』の動きと、指示を出しているセシリアの癖を見極める為に思考速度をフル回転させてます。そして――

「本当、ISってのはとんでもないな。少し前までアニメや漫画の世界でしか存在しなかった自立機動兵装ってのを現実に完成させるんだから」

「あら。今更後悔しても時既に遅し、ですわよ？」

「誰が後悔なんかするかよ。それに、俺は既にお前の自立機動兵装の弱点を3つも見付けてる」

「なっ!？」

「弱点その1――」

一夏はそう告げると、セシリアが驚いている内に非固定浮遊部位アンロック・ユニットであるウイングスラスターで一気に加速し、間合いを詰めた。

そして、反応が遅れたセシリアが持つ『スターライトmk?』を近接ブレードで弾き、言葉を続ける。

「あの自立機動兵装はお前からの命令が無かったら動かない!そして、弱点その2――」

一夏が言葉を続けようとする中、懐に入り込まれたセシリアは近接

用ショートブレードを出すより距離を取る方が早いと判断し、一夏から離れようとする。

ファースト：シフト  
一次移行が終了していない『白式』と、一次移行を終え、何百時間と稼働してる『蒼い雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>ではスラスタの加速力は段違いであり、すぐに離されてしまう。

が、セシリアの行動は一夏にとってはどうでもよく、一夏はセシリアを追わず、自身から一番近い場所に浮遊してる2基のビット『ブルー・ティアーズ』を斬り伏せた。

「この自立機動兵装を使用する際、お前はその制御に意識を集中させなければならぬ！故にお前が何かしらの行動を起こす時、自立機動兵装の動きが止まる！！で、弱点その3——」

十分な距離を取ったことでセシリアは残った2基の『ブルー・ティアーズ』の制御を始め、一夏が最も反応し難い位置と角度からレーザーを放つ。が、一夏はその攻撃を見もせずに回避し、言葉が続けながら再びセシリアへの特攻を始めた。

「お前は必ず相手が最も反応し難い位置と角度からその自立機動兵装で攻撃を仕掛ける！数が半分に減った以上、その攻撃パターンは至極読み易いんだよ！！」

そう告げながら突っ込んでくる一夏に、セシリアは微笑を浮かべながら口を開く。



「お生憎様。『ブルー・ティアーズ』は6基ありますのよ!!」

先程までの一夏への意趣返しと言わんばかりにそう告げたセシリアは、スカート状のアーマーからミサイルを発射した。

一夏は既に回避を取れる状態ではなく、2発のミサイル型『ブルー・ティアーズ』の直撃を受け、赤を超えた白い爆発と光に包まれた。

「一夏ッ!」

「一夏っ……!!」

それを管制室のモニターで見ていた咲良と箒は思わず悲鳴の様な声を上げる。そんな中、一夏の姉である千冬だけは眉一つ動かさず、爆煙が完全に晴れる前に鼻を鳴らし、口を開いた。

「ふん。機体に救われたな、馬鹿者め」

そして、煙が晴れたそこにはファースト・シフト一次移行を終了した『白式』の真の姿があった。

「これは……?」

ファースト・シフト

「まさか…、一次移行!?!? 今まで初期設定の機体だけで戦っていた

と言うの!？」

『ブルー・ティアーズ』を2基も破壊したISが初期設定だったとは信じられず、声を上げるセシリア。そんなセシリアを気にもせず、自身が先程まで持っていた近接ブレードに視線を送る一夏。

今、一夏が手にしているのは嘗て第1回IS世界大会の総合優勝者となった実姉が所持していた『雪片』の発展系、『雪片式型』なのだ。  
モンド・グロツン      プリュンヒルデ

「本当、つくづく最高の姉さんを持ったよ。俺は……。俺も、俺の家族と大切な人を守る」

「は？ あなた、何を言ってる——」

「取り敢えず、千冬姉の名前と北辰一刀流の名は守るさ」

「だから、何の話を……。ああもう、面倒ですわ!!」

セシリアは一夏の独り言の様な言葉に苛立ちを覚え、2基の『ブルー・ティアーズ』で攻撃を仕掛ける。が、その攻撃は容易く避けられた。

ファースト・シフト  
一次移行を終了した『白式』の機動性とセンサーの反応速度は初期設定時の比ではなく、たった2基の『ブルー・ティアーズ』のレーザーを回避するなど朝飯前なのだ。

そして、一夏はその機動性を活かして残った2基の『ブルー・ティアーズ』を一刀両断にすると、『零落白夜』を発動させてセシリアへと迫る。

初期設定時とは段違いの機動性にセシリアは反応することができずに  
懐に入り込まれ、一夏による袈裟斬りが繰り出されようとした瞬間

――  
《試合終了。勝者、セシリアオールコット》

「は？」

「え？」

試合終了のブザーと共に試合終了宣言がされ、何故負けたか理解で  
きない一夏と、同じく何故勝ったのか分からないセシリアがアリー  
ナ内で呆然とすることとなった。

その後、ピット内に戻って来た一夏は千冬さんからの説教と『雪片  
式型』の解説がされた。そして、解説が終了した直後にある人物が  
現れた。

「北辰一刀流の名は守るなどという大言を口にして、あの様な結果  
で終わるとは……。本気で流派を守るつもりなら、努々忘れぬこと  
じゃのう」

敗者である一夏に何とも言えない辛辣な言葉を浴びせたのは、I S  
学園の制服ではなく、先祖でもある大神華撃団の隊長・大神一郎が  
霊子甲冑への搭乗時に身に着けていた戦闘服と同じ物を身に着けた  
大神秀吉だった。



#### 第4話―エミリア（作者）視点―（後書き）

えゝ、最後に登場した華撃団戦闘服は霊子甲冑IS専用のISスーツです。

サクラ大戦に登場した戦闘服同様に肩の所にプラグ（？）接続部分があり、そこに霊子甲冑ISのプラグ（？）が接続されることで、通常のISスーツ以上に霊子甲冑ISを自分の手足のように扱えるようになります。

ちなみにこの戦闘服がISスーツと知った一夏は、次回辺りで露出の少なさに血の涙を流すことになるでしょう。

という訳で、次回も少し時間が掛かると思いますが、お楽しみに！

## 第5話―秀吉視点―（前書き）

取り敢えず、これだけは投稿できそうなので投稿しました。  
（意味が分からない人は活動報告を読んで下さい）

## 第5話―秀吉視点―

久し振り――とでも言うべきなのかのう？プロローグ以来、4話振りのワシ視点じゃ。ちなみに現在の状況は一夏の戦いが終わって、一夏が織斑先生の説教を受けた所じゃ。

そして、ワシも少しだけ説教に参加しようと、一夏の居るピットに姿を現して説教を口にしたんじゃが、何故かその後、咲良以外の全員がワシを凝視してきよった。

何故、一夏だけでなく織斑先生や山田先生も凝視しておるのじゃ？そんな疑問を解決したのは織斑先生じゃった。

「大神兄……」

「何じゃ？織斑先生」

「その格好は何だ？今からどこぞのパーティにでも参加するのか？それとも演劇の衣装か？どちらでも構わんが、今からオルコットとの試合がある。さっさとISスーツに着替えてこい」

「？……何を言っておるのじゃ？ISスーツなら既に来ておるじゃろう」

「着てないだろ。取り敢えず、その一昔前の貴族もどきの様な服からISスーツに着替えて来い」

「……成程、理解したのじゃ。織斑先生、言っておくがコレは大神重工製のISスーツじゃ」

「何？」

「正確には私と兄様が持つてる大神重工製IS適応の特殊ISスーツですね。兄様のはその男性仕様です」

ワシの説明に咲良が更に詳しく付け加えてくれた。そして、更に説明を続ける。

「大神重工製のISは従来のISとは異なって様々な独自技術が組み込まれるからのう。既に本来のISとは別の存在の様なもので、パーツの互換性なども無いもんなんじゃ」

「……ということは、大神君達のISが壊れたら学園では直せないと言うことですか？」

「大神重工からパーツと技術者を呼べば可能じゃが、そうでなければ修理は不可能じゃのう」

というか、ワシと咲良の所持する霊子甲冑ISはそんじよそこらのISとは格が違うから、そう簡単には壊れんがのう。そんなことを思っていると、ワシは一夏が俯いて震えてることに気付いた。

「ん？一夏、何を震えておるのじゃ？」

「……んで、……いんだ！」

「は？」

「何でISスーツじゃないんだよ！秀吉！！」

「何を言っておる。これは真正正銘、ISスーツじゃ。説明したであらう」

「そうじゃない。そうじゃないんだ！」



「それでは何じゃ？」

「何で、一般的なレオタードっぽいISスーツじゃないんだよ!!」

「……………は？」

「秀吉は美少女なんだぞ!そんな宝塚みたいな格好じゃなくて、レオタード風ISスーツを着るべきだ四の字固め!!?」

一夏<sup>バカ</sup>の耳障りな妄言を聞いていたら耳が腐り落ちそうな気がしたので、発生源<sup>一夏</sup>に関節技を極めることにした。

「ヤバい。ヤバいよ、秀吉!このままじゃ俺の足関節がダメに——  
——ぐあああああ……、がくっ」

「い、一夏——!!」

ふむ。どうやら一夏<sup>バカ</sup>は気絶した様じゃな。箒が一夏の名を呼びながら近寄ってくるが、ワシは敢えてそれを無視して『光武参式』の腕部を部分展開し、一夏<sup>バカ</sup>をピットの端に放り投げる。そして、再び織斑先生の方へと向き直り、口を開く。

「で、ワシの試合はいつ始まるのかのう?」

「今からだ」

「今から?一夏<sup>バカ</sup>の試合が終了して30分も経つとらんぞ?相手のISも一部の武装が損傷しておったと思うのじゃが?」

「今から戦う相手の心配か?取り敢えず、それについては心配ない  
と言っておこう。『蒼い雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>の損傷は整備科が直した。

オルコットが予備パーツを持っていたこともあって、すぐに直せた  
そうだ。あと、オルコットは織斑との勝負で火が着いたのか、やる

気満々の様だ」

「ふむ。では、ワシもそれ相応の力で応えるところだろうかのう」

ワシはそう告げると『光武参式』を全展開する。すると、胴体ユニットから太いコードが現れ、その先端にあるプラグ(?)が特殊ISスーツの肩口にある接触口に装着される。

このコードでISとISスーツが繋がることで、通常のIS以上に自分の思った通りに霊子甲冑ISを操れる様になるんじゃないや。

霊子甲冑ISの装備を完全に終えたワシはピットにあるIS用カタパルトへと向かい、カタパルトに足を固定する。カタパルトへの固定を終えた所で咲良が声を掛けてきた。

「兄様。あの程度の人でしたら兄様の敵ではありませんし、負ける心配も無いでしょうがお氣をつけて」

「うむ。氣遣い感謝する」

ワシをそう返答し終えた後、解放されたアリーナへ出撃口に視線を戻し、少しだけ膝を曲げた態勢で待機する。そして――

「進路クリア、リニアカタパルトボルテージ上昇。射出準備完了、タイミングを大神君に譲渡します」

「大神秀吉、『光武参式』！参る！！」

ワシがそう告げると同時にカタパルトによってアリーナへと射出された。そして、アリーナには既にオルコット嬢がいた。

「な、何ですの！その格好は！？」

「……同じ説明をするのは面倒なんじゃがな。簡単に説明するなら大神重工製IS専用の特殊ISスーツじゃ。

ワシとしては露出の無い、服と同じ様なもの故に気に入ってるんじやがな。

そんなことよりも勝負を始めるぞい。言っておくが、ワシは一夏の様な単純なミスは犯さん。それに、ワシの『光武参式』には常識は通じんぞ？」

「……先程の戦いで相手を過小評価することの愚かしさは学びましたわ。最初から全力で行かせて頂きますわ！」

オルコット嬢はそう告げると、試合開始の合図と同時に4基の『ブルー・ティアーズ』を展開しおった。そして、『ブルー・ティアーズ』に包囲される中、ワシは『光武参式』の武装の1つを取り出す。

「……あなたも織斑さん同様、近距離格闘武器なんですわね。ですが、今度は先程の様に接近させるチャンスなど与えませんわ！」

オルコット嬢はそう言い終えると、4基の『ブルー・ティアーズ』から同時にレーザーを放った。その攻撃に対して、ワシは取り出した薙刀型霊力適応式対IS用近接ブレードの刀身に霊力を纏わせ、4つのレーザーを斬り裂いた。

「なっ!？」

「この程度がお主の全力かのう? 期待外れも甚だしいとは正にこのことじゃ」

近接ブレードでレーザー攻撃を斬り裂くという、本来なら在り得ぬ出来事に驚きの声を上げるオルコット嬢にワシは思ったことをそのまま口にする。そして――

「お主とこの場の観客にワシの力の一端を見せてやるのじゃ。しか  
とその眼に記憶するのじゃぞ!」

ワシはそう告げると同時に薙刀型霊力適応式対IS用近接ブレード  
全体に霊力を纏わせ、回転させる様に振るう。

「かんざきふうじんりゅう神崎風塵流――『れんじやく連雀の舞』!！」

ワシが技名を告げながら薙刀型霊力適応式対IS用近接ブレード振  
るうと、ワシを中心に炎が発生し、その炎に飲み込まれた4基の『  
ブルー・ティアーズ』は熱量に耐え切れず、爆発した。

「い、一体どういう原理ですの!?!？」  
「聞いてはダメじゃ!！」

近接ブレードを振るっただけで炎が発生するという、ISに関わる人間にとって摩訶不思議と言っても過言ではない現象に、オルコット嬢は戦いの最中であるにも拘らず大声でワシに問うてきたが、ワシはそれを一蹴した。

そして、そんな遣り取りをやつとる最中に、ワシは武器を薙刀型靈力適応式対IS用近接ブレードから大太刀型対IS・降魔用近接ブレード『神刀滅却』と『神剣白羽鳥』へと変更し、一気に間合いを詰めた。

「!!?しまっ——」  
「遅い!狼虎滅却——」  
『天地一矢!!』

ワシは至近距離から『神刀滅却』と『神剣白羽鳥』による会心の一撃を繰り出し、その直撃を受けたオルコット嬢は、そのままアリーナの地面に落下。

オルコット嬢は絶対防御によって無傷だったがシールドエネルギーがゼロになった。また、ワシの繰り出した必殺技の直撃を受けたことと、落下時のダメージにより『蒼い雫』<sup>ブルー・ティアーズ</sup>は強制解除され、オルコット嬢は気絶しておった。

「……うゝむ。少々、やり過ぎたのう?」

ワシはそう言いながら『光武参式』の指で軽く頬を搔いた。ちなみ

に試合時間はたったの5分だったそうじゃ。

## 第5話―秀吉視点―（後書き）

と言う訳で第5話でした。

次回更新も少し掛かりそうですが、その点はお許し下さい。

それでは、次回も頑張って書きたいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1959s/>

---

秀吉と咲良とIS学園

2011年6月10日19時34分発行